

「見えない敵」

R 2, 3, 24

今日は、雲一つない快晴、桜の花も咲き始めた。本来なら、心も晴れ晴れと言いたいですが、そうならないのは、新型コロナウイルスのせいなのか。新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るっている。そのため、県立高校では、3月3日から臨時休校となり、部活動ができない、友達と会えない、授業が受けられない等、君たちも大きなストレスを感じているのではないか。

今日は、時間短縮のため終業式も取りやめになった。そこで、私の最後の話は、この新型コロナウイルスという「見えない敵」について話をし、お別れのメッセージとする。

まずは、「パンデミック」について

新型コロナウイルスによる感染者は世界中で29万人を超え、死者は約1万3千人。この緊急事態に対して、WHO（世界保健機関）は、感染症の世界的大流行である「パンデミック」を宣言した。

大きなイベントや会議は次々に中止となり、人の往来や経済活動も制限され、株価は暴落している。まるで先の見えない長いトンネルに迷い込んだようだ。

明日から、春休みに入るが、相変わらず新型コロナウイルスに対する警戒が必要である。生徒諸君も、毎日、不自由な生活を強いられているが、ここは小城高生の踏ん張りどころである。論語の中に、“小、忍ばざれば、則ち大謀を乱る”とある。（小さな事に辛抱できないようでは、とても、大事を成し遂げることなどできない）もうしばらくの間、ストレスと上手く付き合いながら、感染の終息を待とう。

次に、「インフォメーション パンデミック」

②WHOは「パンデミック」の宣言と合わせて、「インフォメーション パンデミック」略して「インフォデミック」に対しても警鐘を鳴らしている。「インフォデミック」とは、ウイルス感染が蔓延するなど、日常生活の安心・安全が損なわれると、根も葉もない情報やデマが大量に出回ること。

例えば、「感染予防に納豆が効く」「行政からの委託で、お宅の消毒に伺います」「トイレトペーパーが足りなくなる」「消毒液の代わりに漂白剤を散布するとよい」等、SNS上には、今もたくさんのフェイクニュースが飛び交っている。偽の情報に振り回されるのは、情報の伝染病に汚染されたようなものだ。新型コロナウイルスだけではなく、国民の心を煽る情報の伝染病もまた厄介である。

トイレトペーパーのように、質の良い生活必需品をお手頃価格で購入できることは、現代生活における「豊かさ」の一つである。店の商品棚から生活必需品が消えたからといって、日常生

活から豊かさがすっかり消えてしまうわけではない。デマに振り回され、特定の品物を買いたる様は見るに忍びない。小城高生には、情報を吟味し、冷静に判断して、心の豊かさまで失くすことのないように振舞って欲しい。

最後は、感染によって生み出される「差別」について

始業式で、「令和時代は、貧富の差や人種差別など、「分断」と「格差」が広がっていく」という話をした。ここに来て、新型コロナウイルス感染が広がるにつれて、世界中から「差別」事案が報告されている。

例えば、新型コロナウイルスの感染者が働いていた病院の他の職員が、飲食店への入店を断られたり、感染者の多いアジア地域の出身者というだけで、理不尽にも一方的に殴る蹴るの暴力を受ける等の差別事案が発生している。

私たちは、未知のウィルスによる感染症拡大といった状況に置かれると、不安感が募り、知らず知らずのうちに、ウィルスに翻弄される「弱者」となってしまう。このような時、弱者は、次の弱者を作り出すと言われている。人間の本性として、人は、自分よりも弱いものを作り出すことで安心を得ようとする。今回の感染に伴う差別の広がりがそのことをよく表しているように思う。小城高生は、パンデミックが起ころうとも、人を差別したり、貶めたりすることのないように、プライドを持って行動して欲しい。

私たちは、今、新型コロナウイルスという「見えない敵」の恐怖にさらされている。“わが身は自分で守る”、特に「心の感染防止」には一人ひとりがしっかりと取り組んでもらいたい。